公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成事業報告書［抄録］

１．事業名：青年期における歯科保健啓発活動「ハローフロスプロジェクト」の推進

２．申請者名：一般社団法人　仙台歯科医師会　　代表者：小菅　玲　担当者：平田　政嗣

３．実施組織：(一社) 仙台歯科医師会・東北大学大学院歯学研究科・東北大学歯学部歯科医療研究会・仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議・仙台市

４．事業の概要：

我々は令和 6 年度 8020 推進財団歯科保健事業助成制度を活用し、青年期における歯科保健啓発活動「ハローフロスプロジェクト」立ち上げ、テーマをデンタルフロスの青年期への普及啓発に絞り、活動の主軸に学生を据え広く仙台市内の大学・短大・専門学校等への啓発活動を展開した。具体的にはデンタルフロス付きリーフレットを東北大学歯学部学生のサークルである「歯科医療研究会」と連携して作成し、それを大学祭・大学での検診等の機会を活用して、約 15,000 部を配布した。また、アンケートを実施して青年期における歯科保健行動の傾向を把握した。詳細は令和 6 年度の当助成制度の報告書に記載した。それを踏まえ下記事業内容についてさらに検討を行ったので報告する。

青年期への当事者目線での有効な歯科保健活動を行うとこで、来るべき壮年期高齢期への行動変容の一助となればオーラルフレイル啓発予防の推進に一石を投じることもできる活動と言えよう。

５．事業の内容：

（1）令和 6 年度の分析と課題の検討

前年度のアンケート結果から、若者の歯と口の健康に対する意識調査からデンタルフロス啓発の必要性が分かったことから、啓発の場を大学生は継続するとともに「子育てフォーラム」や幼稚園に拡大して実施した。さらにデンタルフロス付きリーフレットを増刷し、合計 20,000 部の配布を実施した。合わせてアンケート調査も継続した。

（2）特定大学等における事前調査と事後調査の実施

市内特定大学を 2 校選定しリーフレットを配布する前と歯と口の健康に関する情報提供とリーフレットの配布後の意識度は、デンタルフロスの使用方法・使用率ともに上昇がみられ、リーフレットを活用した啓発は一定の効果があることが分かった。しかし、その効果は十分とは言えなかった。

（3）アンケート調査実施・調査結果の集計・分析

（4）分析結果から課題抽出とその対策の検討・次年度以降の活動方針の検討

６．実施後の評価（今後の課題）：

活動の場を広げたことでより多くに市民に対して啓発が行えたことは評価に値する。また、リーフレット配布の前後で学生の意識変化をみた調査では明らかにデンタルフロスの理解と使用率は向上したが、その値は十分とは言えなかった。これは単に配布するにとどまらず、何らかの情報発信を伴うような配布方法を考慮する必要があることを意味する。「1 日 2 回以上歯磨きをする、毎日デンタルフロスを使う」など正しいオーラルケアの習慣はより低年齢から習得する必要がある。引き続き青年期当事者である東北大学歯学部の学生サークルを活動の軸として、彼らを支援し協働する立場で「学齢期・青年期の市民が、壮年・高年と年齢を重ねても健康なお口で食べることや話すことを楽しめる土壌つくり」を目指して行動していく所存である。